

# 持続性を持った農業の姿を追求

有機農業

環境資源の保全

トゥリーアンドノーフ株式会社

代表者：代表取締役 徳本 修一  
所在地：鳥取県鳥取市気高町飯里359  
設立：平成24年4月  
従業員数：20人(アルバイト含む)  
事業内容：有機農産物の生産・販売、農業研修  
圃場面積：20ヘクタール(平成30年1月現在)

## ○事業・活動の概要

トゥリーアンドノーフ株式会社は、「一人でも多くのお母さんと子どもたちに、安全で美味しい野菜を届けます。」をテーマに、科学的有機農業で小松菜やじゃがいもなど、数種類の有機野菜を育てている。

東京のIT関連の会社に勤めていた徳本氏が、子どもの頃に祖母の作ったもぎたてのトマトを食べた時のおいしさや風景が忘れられず、自然豊かな場所で子育てをしながら農業を始めたいと思い、平成24年に地元鳥取県で農業法人を設立した。

## ○エシカル消費について

同社では、エシカル消費とは消費行動をする際に、ただ安いから、便利だから、といった点だけで選ぶのではなく、「社会のため」、「人類のため」、「地球のため」といった視点も加えてみよう、という主旨だと考える。環境への負荷を抑え、地元地域の資材をできるだけ循環させるなど持続性のある農業の姿を追求する、科学的有機農業を行い、その手法で生産された有機野菜を供給することで、エシカル消費の一端を担っている。



公表日：平成30年6月27日  
取材：平成29年10月「エシカル・ラボ in とっとり」にて  
外部リンク：<http://treeandnorf.com/>

## ○事業・活動について

同社が取り組む科学的有機農業は、畑や野菜が必要とする成分・栄養素を、毎日の観察と科学的な分析によって把握し、必要なものを必要な量だけ与える。データ管理することで経験や勘に頼ることのない科学的裏付けができ、農業経験のない人でも安定的な栽培計画を立てることができるようになった。それを大規模に行うことにより作業の効率化、収穫・出荷の安定性の確保、流通価格の抑制と収益性の向上につながる。

また、世界的に大穀倉地帯の農業は地下水に依存しており、化学肥料に使われるリンも地下資源である。すなわち、リンも地下水も石油同様に有限であることから、増え続けている世界人口の食料を賄うためにはこれらの地下資源に依存しない農業によるイノベーションが必要になるという考えの下、この科学的有機農業に取り組んでいる。

## ○課題と今後の目標

当初は鳥取県内の農場で何種類もの作物を作っていたが、適地適作というように、その土地、その気候風土に適した野菜があるため、今は、鳥取県内の農場で有機小松菜を、岡山県内の農場では有機じゃがいもと有機にんじんを作っている。今後は、全国各地に農場を広げ、その土地に適した野菜を作ることが目標である。

また、新規就農者や農業従事者を増やしたいとも考えており、そのための農業研修の受入れも積極的に行っている。

## ○他の団体や企業との連携について

有機野菜を適切な価格で、かつ、日本全国に一年を通じて安定的に流通させるために、農業に危機感を持っている全国・世界各地の若い世代の農業従事者と連携を行い、技術の知見を深め、より品質の良い野菜を生産できる確率を高めていきたいと徳本氏は考える。さらに、有機野菜の栽培技術を体系化、高度化するという目的を共有してくれる農場と提携し、科学的有機農業の事業体を作ることによって、市場における有機野菜のプレゼンスの向上と、高収益な農業への改革を実現するため、SNSでの情報発信や交流、農場視察や研修などを積極的に行っている。

